

## **[成果情報名]富士北麓地域における据え置き株を活用したスターチスの新作型**

**[要約]**富士北麓地域においてスターチスの据え置き株を利用することで、2～3年間の出荷できる。ハイブリッド系品種は無加温ハウス及び冬期トンネル栽培で据え置き可能である。シニユアタ系品種は無加温ハウスで据え置き可能である。

**[担当]**山梨県総合農業技術センター・高冷地野菜花き振興センター・岳麓試験地 志村貴大

**[分類]**技術・普及

---

### **[背景・ねらい]**

近年の切り花需要増加の反面、富士北麓では高齢化等の影響により生産量が減少し、直売所では地元産が不足している状況にある。また、従来の切り花栽培では、施設化や種苗更新の負担が大きく、新たに取り組む生産者がいない。本試験では、スターチスのうち高標高でも露地栽培及び冬期トンネル栽培、無加温ハウス栽培が可能な品種を選定するとともに、一度収穫した株を据え置きし、需要期に収穫ができる地域に合った新作型を開発する。

### **[成果の内容・特徴]**

1. スターチスの新作型では、無加温ハウスや冬期トンネルを用いることで、2～3年の据え置き栽培を行うことが可能である（図1）。
2. 露地栽培より無加温ハウスや冬期トンネルを用いた方が、株生存率と株当たり採花本数が向上する。ハイブリッド系品種は無加温ハウス及び冬期トンネル栽培で据え置き可能であり、シニユアタ系品種は無加温ハウスのみが据え置き可能である（表1）。
3. 冬期トンネル栽培の場合、ピンク系で「桃山」、「京舞」、黄色系で「山吹」、「祥月」、白系で「清流」の5品種が適する。無加温ハウス栽培の場合、ピンク系で「桃山」、「京舞」、黄色系で「山吹」、「祥月」、白系で「清流」、紫系で「藤娘」、赤系で「モナリザ」の7品種が適する（表1）。
4. 基肥は N-P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>-K<sub>2</sub>O=15-15-15 (kg/10a) をマルチ内施肥し、2年目及び3年目はロング70を株当たり3gを株元施用する。

### **[成果の活用上の留意点]**

1. 本試験は標高820mで行った結果である。
2. 灰色かび病に注意して薬剤の定期散布をするとともに、アブラムシ、アザミウマ、ハダニの防除も行う。
3. 株養成を行うため、採花後も必要に応じて、防除を行う。
4. 基肥は、溶出期間の長い肥効調節型肥料を用いる。

### **[期待される効果]**

1. 必要最低限の投資にて栽培ができ、新規参入者や高齢者、複合経営生産者が導入が可能となる。
2. 新作型により需要期出荷が可能になり、経営の安定化が図られる。

## [具体的データ]

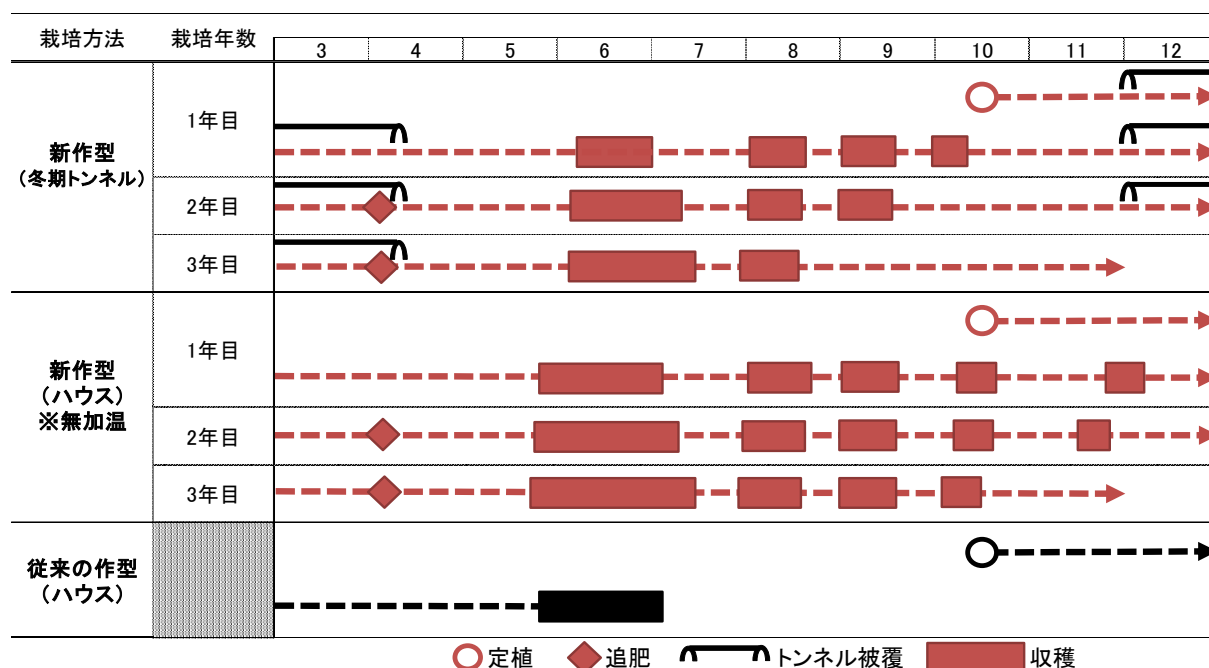


図1 据え置き株を活用したスターチスの新作型

表1 ハイブリッド系品種とシニユアタ系品種の据え置き株の品質の推移

栽培方法	品種	花色	1年目		2年目		株生存率 %	3年目		
			可販本数 本/m <sup>2</sup>	可販割合 %	可販本数 本/m <sup>2</sup>	可販割合 %		可販本数 本/m <sup>2</sup>	可販割合 %	株生存率 %
露地 + トンネル無し	HB	桃山	36.1	88.7	2.2	45.0	50	-	-	0
		山吹	16.9	70.7	5.3	66.7	50	2.9	92.3	20
露地 + トンネル有り	HB	桃山	56.4	87.3	11.1	56.8	90	10.2	28.8	80
		京舞	24.0	98.0	14.0	76.3	50	6.8	62.2	10
		山吹	31.7	85.1	37.3	74.4	80	16.5	51.9	40
		清流	47.2	92.4	16.5	58.6	100	15.2	64.9	70
		祥月	43.6	85.7	18.8	49.2	75	3.6	85.7	25
ビニールハウス (無加温)	HB	桃山	47.2	87.3	41.1	91.1	83.3	44.4	88.7	83.3
		京舞	33.9	91.3	27.8	89.6	83.3	24.6	69.3	83.3
		山吹	30.3	78.1	30.7	79.2	100	111.7	78.7	100
		清流	34.7	82.7	24.2	84.5	100	48.0	81.0	100
		祥月	67.8	84.8	35.1	48.3	100	104.1	77.5	50
	SA	藤娘	321.9	79.9	137.9	76	100	-	-	0
		モナリザ	186.3	83.7	48.4	36.4	100	0.0	0.0	100

注1) HB: ハイブリッド系, SA: シニユアタ系

注2) トンネル設置期間は、12月上旬 ~ 4月中旬

注3) 栽植本数は、2.4本/m<sup>2</sup>

注4) 供試品種は、14品種

## [その他]

研究課題名: 富士北麓地域における据え置き株を活用した切り花の新作型開発

予算区分: 県単

研究期間: 2014~2016 年度

研究担当者: 志村貴大、渡辺淳